



414
A2917



謹
テ哀訴歎願仕作曩、后奈并三潞縣
産物社中士族存庄一行等が爲、汽
船買入ノ紹介仕作願末大藏省、
於テ迄、沛推問沛坐作處其由テ
起ル因縁ハ后奈叔一已ノ私意ヲ以テ
高價ノ船ヲ産物社エ買取ラセ其間
ニ乗テ私アル趣又ハ冬事ニ於テ曾テ

旧三潞縣七等出仕富永奈叔

天大
限正
候十一年
爵郵寄四
贈月

2869



兼諾セザルナド杜撰証固ノ儀ヲ冬事
水原久雄具状仕作ヨリ釀成シテ巨祭并
并社中ノ者共召シ出ダサレシ處當
彼等今日ノ言フ所ヲ採テ真確トナシ
前日ノ行フ所ヲ棄テ不問ニ置カレ
作ハ所謂先入主タルノ儀無之ナド
巨愚大ニ惑フ所ナキニ非ス固ヨリ
條約書代印等ノ儀ハ全ク巨輩叔ガ

不行届恐悚ニ堪ハ作得共元来
此事タル而冬事於テモ決テ不同意
ニハ無之既ニ先般船代價ノ均壹万圓
縣廳ヨリ貸セ下ゲ猶當地掛屋ヨリ
壹万圓社中ノ者共借入作節添書ヲモ
差越セシハ其筋官負ノ能ク知ル所
有ニ然ルヲ今更ニ巨輩并一己ノ所
分ヲ以テ人民ノ權利ヲ奪ヒ加之私

アハ如ク具状仕作ハ抑如何ナル至意
ニヤ第一數月間悦服航海羅在作
者ヲ召シ強テ苦情ヲ吐カシメシ庶
於テモ其事ノ信誣瞭然タル儀ト奉
存儀后今日免官タル所以ヲ伺ヒ知
能ハスト虽モ汽船ノ一事ニ至リテハ
后祭叔ガ在官ト免官トニ拘ラス事
故ノ顛末ヲ明ラカシテ至當ノ評

示分ヲ仰ガズンハ密ニ憂フ上ハ
鴻政ノ病ニ情実ノ明ラカナラサルヲ
下ハ一身ニ於テ千載ノ醜名ヲ遺シ
儀儀ヲ伏テ希クハ區々ノ情状厚ク
評憐汲被成下冬事ヨリ具状ノ
信誣評取札シノ上公平ノ評示決
評坐儀ハ、后祭叔一身ノミナラス尔
来存縣ノ有志証告ノ爲メニ其身ヲ

陥イレ作者無之横お成ルベクト點止
スルニ忍ヒス

閣下ニ拜伏シテ血泣悃願仕作誠恐首

明治六年六月廿八日

富永發井

本書ニ申上ル流船買収ノ類
未左ニ詳述仕作

人民戮力シテ高社ヲ結ビ物産蕃殖
利用厚生ノ策ヲ立ツルハ方今ノ所
主意弁論ヲ待タス抑三潞縣ノ産
物タル米麦ヲ除クノ外蠟茶紙ノ
類凡ソ二百万圓餘ノ數ニシテ蕃殖富
實ノ盛大ナルヨリ旧久留米藩於テ

生産會社ヲ構立シ船艦四艘其数未詳
ヲ備ヘテ其產物ヲ移出運送セリ
然レニ昨年中彼ノ船艦四艘駁道
竄ニ上納シ生産會社モ廢止シテ
ヨリ高路窮迫貨幣不融通隨テ
土地其地ノ憂アリ友ニ於テ有志ノ者
戮力同心シテ產物會社ヲ設立セシ
トシ官ニ乞ヒ既ニ其許可アリシガ

一ノ船艦ナキヨリ物產運務ノ路ヲ
塞キ其利益モ亦少ニナルニ業ニ彼
此推算ノ餘衆論一決彼ノ上納中
青龍艦ノ一艘ヲ官ニ乞ヒ拂ヒ戻サ
レシトシ在望シ昨六月水原関口ノ
兩旁事ヨリ大坂出張山内浮道權助
懇願ノ書ヲ達シ長谷井モ其副書ヲ
附達シ弥永健吾三潞縣士族ニテ
產物會社中ノ一人等ヲシテ

上阪セシノ山内氏エ頼諾ノ餘出京
驛進寮エ款願スト雖モ同寮ニ於テ
云々ノ演説アリテ事成ラサリシガ
昨十月長祭叔公事アリ出京ノ時
右社中ヨリ船艦買入ノ事ヲ委頼セ
ラレ、ヲ以テ公務ノ傍ヲ注意セシガ
横濱在留 ウオールスシホ所持モータン号
汽船ノ買物アル由 山崎甚右馬 昨年中三

滋野ニ来リテ通商ノ条約シ
且汽船ノ造テラ文ケシ人ヨリ長祭叔ニ諾アリ
之レヲ詳問シテ船製ノ善悪價直ノ
高低ヲ彼ノ青龍艦ニ比スレハ船幅
同フシテ噸數五十一噸少ナシト虽長サ
四フット多クシテ馬力十馬力ヲ増加シ
製造ノ年數今ヲ距ルテ僅カニ四年
前ナリ其價值ヲ論スレハ青龍艦ニ
八万五千弗モータン 船タル七万六千弗ナリ

后祭叔愚昧ト虽モ總テ青龍艦ニ
比擬シ敢テ高價ナラサルヲ以テ出張
所法官負ト熟議一決シ社中ノ人ニ
代テ假條約ヲ結ビ之レニ調印シテ
買入レシガ是ヨリ先岡田平藏高橋
ナル者大藏省ニ乞ヒ此船ヲ以テ秋田
ヨリ銅ヲ積込来ラントノ事故アリ
其出帆ニ臨ミ社中ヨリ同船ヲ買入ル

、ノ諾議起レルヲ以テ早ク之レカ結
約ヲナサズニバ大ニ妨ケアルヲ
以テウオールスシホーンヨリ切迫ノ諾アリ
然ルニ后モ歸縣ノ際旁以テ至急ニ
結約セスンバ社中ヨリ頼諾セラル、旨
趣モ達セス隨テ物産ノ運將ヲモ沈
塞セシメ冬事ノ意モ亦函保ニ歸
センヲヲ思惟セリ是則后祭叔ガ結

約ヲ急ニスル所以ナリ然レモ此船ヲ
買入ル、當テハ社中ハ勿論水原
冬事へ郵便ヲ以テ再應其旨趣ヲ
明細送達ス但其返書ヲ待タス之ヲ
決スルハ斯カル急迫ノ都合ニヨレバナリ
尤社中ニテ此船ヲ買入レサル時ハ三川
高社ニテ之レヲ買入スルノ計アルヲ以テ
同社ニ議シテ若シ產物社ニ不用ノ時ハ

引渡スヘキノ條約ヲ遂ケタリ然レモ中ハ
存縣並ニ社中ニ苦シ一ノ不義ヲ生
セス一ノ不利ヲ興サザルヤ明カナリ且
既ニ郵便ヲ以テ冬事並ニ社中ニ
達スト虽モ更ニ十五等出仕淺田正文
赴任ニ付其類未ヲ承諾セシメ存縣ニ
趣カシム於是社中ヨリ弥永健吾ホ
ヲシテ出京セシメ宛委頼ノ書アリ

参事ヨリモ義諾ノ返報アリテ冬
事ニ於テ一ノ不諾ナク社中ニ於テ
一ノ不便ナシ故ニ后祭叔弥永等ヲ
シテ横濱ニ行キ此船ヲ試乗セシメ
事定リ約成ルノミナラス尔後ハ總テ
社中ヨリ直ニ寄ルニスエ談判ヲ遂ク
ルノ事宜ニ至レリ且代價七万六千弗ノ
渡シ方ハ即金四万弗三月中旬二万弗

八月中幸万六千弗ト定メ即金四万弗
ノ内幸万弗ハ縣廳ヨリ貸與シ二万弗ハ
社中ヨリ輸出シ幸万弗ハ掛屋ヨリ借
用スヘキ筈ニテ是尔兩冬事ヨリ添書
ヲ投セリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ冬事初
メ社中ノ者共今日ノ言フ所実情ナ
ラバ買入ルノ時ニ方リ何ゾ出金ノ
手段ヲ止メ價值ノ高低ヲ論セサルヤ

然ルニ殆ト半年間航海ノ後ニ至リ
冬事ヨリ電信便ヲ以テ召出シ其
苦情ヲ訴ヘ加之冬事初メ典事属
等属横濱ニ至リ西村屋新七三浦縣
用達
ヲ強テ詐偽ヲ言ハシメ且池田房者
等ノ言ヲ以テ信告トナシ之レヲ
政府ニ上陳スルハ大ヲ誣ルニ非スシテ
何ゾヤ抑此房者ナル者ハ東京丸々

船士タリシガ同船沈没ノ後大ニ窮居
セシヨリ產物社ニテ船艦買入ノ上ハ
之ニ従事セシヲ以テ長ニシタリ長彼
ト一面識タリト虽モ固ト同國ノ人
ニテ其情実懸然且彼レ船事ニ習
レタルノ故ヲ以テモ一々ニ船買入ノ時
同行シテ船ノ機関等ヲ咨問セシガ
其時ニ於ケル大ニ盡力検査ノ上一言ノ

申分ニナキヲ言ヘリ其後彼レ徒ラニ
私欲ヲ生シ西村屋新七若竹信雄
旧三瀬縣十五等
出仕等ト私語ヲ遂ケ松尾熊三郎
高橋ノニ謀ラ謝金ヲ貸ラントセシガ
其事奈覺シテ成ラサリシヨリ其根
ノ暴言ヲ以テ所ニハ謗誣セリ是等
ノ物議ハ曾テ社中ノ者モ有知シテ
毫モ意ニ関セザリシナリ然ルニ今般

至急ニ出京ノ命ヲ拜シ今月十二日
品川驛ニ着セシガ社中ノ者若同宿ニ
居リ居リ見テ汽船一条冬事ヨリ
意外ノ語アル趣ヲ述ブ帰家ノ日十二日也
荒木権大属来リ其云ニヲ説ク夜ニ
於テ辰叢叔冬事ノ趣意ヲ愚察ス
直ニ出張所ニ至リ冬事ト議論スト
虽モ其言容レサレズ尔後大藏省ニ

於テ再度淨推問アリ臣等叔反復
弁論スト虽モ所謂先入主トナリテ
其意徹底セサルカト憂懼止ムナシ
故ニ猶^オ事故ノ顛末ヲ陳述シテ
斧鉞ノ責ヲ待テ奉リ作也

明治六年六月廿八日